

令和6年3月8日

目黒区教育委員会教育長 様

目黒区立東根小学校
学校長 高鍋 恭子

令和5年度 目黒区立東根小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和5年6月17日(土) 午前11時30分～午後1時30分
- ・学校公開参観
 - ・参観振り返り
- (2) 第2回実施日時 令和5年10月21日(土) 午前11時30分～午後1時30分
- ・学校公開参観
 - ・参観振り返り
- (3) 第3回実施日時 令和6年2月15日(木) 午前10時30分～午後1時

2 参加者

樺山幸彦 亀井亜佐夫 平井高士 高田嗣人 眞仁田治子

3 評価の結果等

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎（成果）、●（課題）、 ⊙（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて	●高学年児童の肯定的な評価が 85%台でポイントも 3.2 下がっている。これは、新型コロナウイルス対策の中で 3 年間生活したことで、学校生活に適応できなかったり、友達との関係を上手に築けなかったりしたことも一つの要因かと考える。	・コロナ禍以前の教育活動が徐々に再開されてきたが、コミュニケーションをとることや粘り強く取り組むことなどを苦手とする児童が多くなっている。この現在の児童が抱える課題を再確認し、教育活動全体の見直しをしていく。 ・教職員も経験のないことが多くなり、円滑に進められないことが増えているので、引継ぎや OJT などを計画的に行い、教育活動全体がスムーズに行われるようにする。	・児童、教職員ともに新型コロナウイルス対策を講じてきた 3 年間の影響は大きいと感じる。今年度、新たに取り組んできたことを基に、現在の児童の状況・学校に応じた教育計画を立て、実施していくようにする。

I 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>80.4</td><td>－5.5</td></tr><tr><td>児童（低）</td><td>95.3</td><td>－0.7</td></tr><tr><td>児童（高）</td><td>95.8</td><td>－0.7</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	80.4	－5.5	児童（低）	95.3	－0.7	児童（高）	95.8	－0.7	◎教育活動全体では、感染症対策が緩和され従来の教育活動を行う中で、教職員が協力しながら取り組んできたことが評価されている。 しかし、保護者の中には、その内容や意義に対して、理解が得られていない側面も見られる。	・教育活動は、従来の活動と新型コロナウイルス対策を経て変えてきたことを精査し、子どもたちにとってより意義のある活動となるよう工夫していく。また、保護者には、活動の意義や取組について積極的に発信し、丁寧な説明を行うよう努める。	・教育目標や教育活動の変更点は、その都度丁寧に、児童や保護者に伝えていくことを継続していく。
対象	結果	差													
保護者	80.4	－5.5													
児童（低）	95.3	－0.7													
児童（高）	95.8	－0.7													
II 心の教育について ・道徳科（道徳）の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>80.4</td><td>－5.5</td></tr><tr><td>児童（低）</td><td>95.3</td><td>－0.7</td></tr><tr><td>児童（高）</td><td>95.8</td><td>－0.7</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	80.4	－5.5	児童（低）	95.3	－0.7	児童（高）	95.8	－0.7	◎児童は、高学年 95.8%、低学年 95.3%が肯定的評価である。 ◎保護者による肯定的評価は、80.4%と比較的高いものの、5.5 ポイント減少している。道徳授業地区公開講座において、保護者向けの講座等の充実、参加しやすい時間帯の確保が要因の一つだと考えられる。道徳科の授業の学びを生活の中で直接実践力としてつなげることは難しいが、期待されている結果と捉える。	・児童一人ひとりを大切に思い、接することを常に念頭に、寄り添い、声をかけ、思いに耳を傾け、教職員全員で児童理解に努める。 ・魅力ある道徳科の授業の充実を図るため、授業の導入や話し合い活動の方法などを工夫していく。 ・道徳授業地区公開講座においては、本校主幹教諭による講演会を行い、道徳授業や児童の言動等家庭での接し方などを共有した。参加者は少なかったが、話しやすい雰囲気であった。今後も、継続できる方法で発信する。	・道徳教育は、家庭との連携が不可欠と考える。 ・道徳授業地区公開講座の持ち方は、時間帯や内容なども含めて検討し、より多くの保護者に関心をもってもらえるよう工夫していく。
対象	結果	差													
保護者	80.4	－5.5													
児童（低）	95.3	－0.7													
児童（高）	95.8	－0.7													
III 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、学習タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、	●学習指導全体への評価は、高学年は 90%を超えているものの、昨年度より全て 5 ポイント程度減少している。新型コロナウイルス対策を行った上での学習形態から、児童同士の対	・学力調査等の結果を分析し、授業改善プランを基に、児童の実態に応じた授業改善を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業研究を行い、指導法や教材・教具の工夫に	・授業を参観して、1 年間の児童の成長を感じる。 ・文字指導が徹底して行われた成果が表れている。 ・ICT 機器の活用で、授業がスムーズに行われて												

自然宿泊体験教室、 キャリア教育等の充実 について	<table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>81.3</td><td>－5.5</td></tr><tr><td>児童（低）</td><td>87.8</td><td>－5.8</td></tr><tr><td>児童（高）</td><td>90.5</td><td>－4.4</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	81.3	－5.5	児童（低）	87.8	－5.8	児童（高）	90.5	－4.4	話を中心とした学習形態に慣れていないことが要因だと捉えている。 ●学習活動における学習用情報端末の活用効果について、低学年・高学年共に肯定的な評価が85%を上回っているものの、低学年の評価は昨年度と比較すると5.8ポイント減少している。保護者の評価も昨年度より5.5ポイント減少している。児童が、学習用情報端末を授業内で効果的に活用することができていないことや学習以外の目的で使用してしまっていることが原因だと考える。	努める。 ・習熟度別指導の取組についてその方法やねらいを保護者会で説明したり、学習用情報端末を活用した授業実践を学校公開日に行ったりし、保護者への理解啓発を図る取組を継続していく。 ・「目黒区学習用情報端末活用スキル ステップアップシート」を活用し、ICT支援員や、GIGA支援員と連携しながら児童一人ひとりの情報活用能力を確実に高める指導を行う。	いる場面が多くあった。 今後も活用の仕方を工夫していく。 ・黒板の板書を写す活動も時にはあってよい。学習用情報端末と併用した学習指導ができるとよい。			
対象	結果	差																	
保護者	81.3	－5.5																	
児童（低）	87.8	－5.8																	
児童（高）	90.5	－4.4																	
Ⅳ 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	<table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>84.2</td><td>+2.2</td></tr><tr><td>児童（低）</td><td>94.7</td><td>+0.5</td></tr><tr><td>児童（高）</td><td>86.6</td><td>+0.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>81.0</td><td>－13.7</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	84.2	+2.2	児童（低）	94.7	+0.5	児童（高）	86.6	+0.1	教職員	81.0	－13.7	◎児童による肯定的な評価は、低学年で94.7%と比較的高い水準を保っているが、高学年、保護者共に、肯定的な評価は84.2～86.6%に留まっている。低学年は、様々な運動や遊びをコロナ禍前に近い形で行えたことが、増加につながった要因と考えられる。高学年や保護者からの評価は、より一層の体力向上、健康の促進を望んでいるため、低い結果になったと考えられる。	・冬季の「なわとび月間」や「ペースランニング」などの取組をより充実させる。 ・「めぐろ ここカラダシート」を活用し、一人ひとりの体力や生活習慣の実態について保護者に情報発信していく。	・新型コロナウイルス対策が解除されたことから、児童の心身の健康をより一層図る取組を充実させることが大切である。 ・用具の整備などを進め、児童が安全に運動できる環境を整える。
対象	結果	差																	
保護者	84.2	+2.2																	
児童（低）	94.7	+0.5																	
児童（高）	86.6	+0.1																	
教職員	81.0	－13.7																	

V 特別活動について

- ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて

対象	結果	差
保護者	79.8	-5.2
児童(低)	94.7	+1.4
児童(高)	91.7	-1.0
地 域	100	+41.7
教職員	92.9	-5.3

◎児童・教職員共に肯定的な評価が90%を上回っており、概ね良好といえる。また、感染症対策を講じたうえで、地域に行事を公開する機会が増えたことで、学校の様子が伝わり、良い評価につながったと考える。

●保護者からの肯定的な評価が昨年度より下回っている。そのうち、「分からない」の回答が否定的な評価を上回っており、特に異学年交流活動やクラブ・委員会活動など、公開していない活動の様子について、十分に保護者に伝わっていないことが要因として考えられる。

- ・コロナ禍における制約が緩和され、活動の幅が広がる中で、これまでの経験が少ない児童でも、主体的に活動できるようだてを講じ、学級・学年・学校全体で児童が活躍できる場を設定する。
- ・学校行事においては、コロナ禍以前の前例に従うだけではなく、今の児童の実態に応じた取組ができるよう工夫する。
- ・たてわり班での交流に留まらず、様々な学年間交流ができるよう、学校全体で計画的に取り組む。
- ・公開する機会が少ない、異学年交流やクラブ活動等の様子について、適宜学校ホームページを活用し、周知に努める。

- ・学校では、さまざまな取組がなされているので、活動について、ホームページや学校公開などを通じてさらに発信し、保護者や地域への周知を図っていくことが大切である。

VI 学校生活全般について

<生活指導>

- ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて

対象	結果	差
保護者	71.4	-12.2
児童(低)	91.1	+1.2
児童(高)	90.5	+0.5
地 域	75.0	+28.8
教職員	76.2	-4.5

◎地域の方の評価について、昨年度までは、「分からない」という回答が多かったが、新型コロナウイルス対策の緩和により、学校行事等の参観ができるようになったことが要因であると考えられる。

●学習や生活規律の上で、全校で共通した指導を粘り強く続けたが、児童同士や児童と教員の人間関係の複雑化や、その対応の難しさから、学校生活に不安のある児童・保護者

- ・「東根スタンダード」について、教職員、保護者、児童との共通理解を測り、粘り強い指導を継続する。
- ・年度当初の保護者会で、「学校いじめ防止基本方針」を周知し、学校と家庭等が協力していじめ問題に取り組んでいくことを確認する。
- ・日々の児童との関わりや、月一回のいじめに関するアンケートを通して、児童理解に努め、いじめ対策委員会や生活指導夕会での情報共有

- ・「東根スタンダード」を年度初めに確認し、共通理解のもとで教育活動を進めていくことが大切である。
- ・保護者への周知の仕方、知らせる内容の精選などの工夫が必要である。
- ・いじめアンケートの実施方法や内容が、児童の実態把握に適当かの検証が必要である。
- ・アンケートだけでなく、日常の児童の言動を教員がしっかりと見取っていくことも大切であ

	もいることが要因として考えられる。児童・保護者・教職員の全体を通して生活指導における課題意識が高まっている。	を行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応について組織的に取り組み、安心して過ごせる学校を目指す。	る。															
<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>93.0</td><td>+0.9</td></tr><tr><td>児童(低)</td><td>94.1</td><td>-1.9</td></tr><tr><td>児童(高)</td><td>94.9</td><td>+0.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.6</td><td>+3.0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	93.0	+0.9	児童(低)	94.1	-1.9	児童(高)	94.9	+0.6	教職員	97.6	+3.0	◎今年度は、実際に全学年が校庭に避難する訓練を行うことができたため、防災や安全についての意識を高めることができたと考ええる。 ●低学年で肯定的評価が減少している要因としては、今年度短期間で複数回報告があった不審者に対する不安や防災や安全についての意義を十分に理解ないままの取組になってしまっているという点が考えられる。	・避難訓練や安全指導の後に、様々な時・場合・場面において、どのような行動や判断をすべきか学級指導をし、自分の行動を振り返る機会を設定する。 ・毎月の避難訓練や各学年のセーフティ教室の様子を学校ホームページに掲載するなど、防災や安全についての学校の取組を保護者や地域に積極的に発信する。 ・学期内や長期休業日期间中に「防災ノート」「GIGA ワークブック 東京」を計画的・友好的に活用し、防災や情報モラルについて家庭と連携して考える機会を設ける。	・防災意識を高めるために日々の安全指導については、全校で継続して行っていくことが大切である。 ・地域や家庭と連携を取り、地域での防災訓練や交通安全教室などに積極的に参加するよう呼びかけたりセーフティ教室などへの案内を発信したりしていく。
対象	結果	差																
保護者	93.0	+0.9																
児童(低)	94.1	-1.9																
児童(高)	94.9	+0.6																
教職員	97.6	+3.0																
<幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>61.6</td><td>-7.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.5</td><td>-6.0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	61.6	-7.5	教職員	90.5	-6.0	◎今年度は、中学校と連携して行う「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」（第6学年）「合唱コンクールリハーサル見学」（第5学年）等も実施することができた。また、幼稚園・保育園との子どもたち同士の交流も実施する予定だが、実施前	・高学年においては、小中連携の取組、低学年においては、幼保小連携の取組を、保護者会などを通して広く保護者に知らせていくとともに、中学校区で揃えて作成したキャリア・パスポートを有効に活用し、キャリア教育の充実を図る。	・中学生や幼稚園児、保育園児との交流は、互いにより影響を与えるものと思われる。交流できるようになったこの機会を捉え、より効果的な交流の形を模索していく。 ・また、よい取組については、積極的に発信し、保護者への周知を図りたい。						
対象	結果	差																
保護者	61.6	-7.5																
教職員	90.5	-6.0																

	のアンケートであったため、結果に反映されていないと思われる。														
Ⅶ 情報の発信、家庭・地域との連携について ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA 活動の充実などについて <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>保護者</td><td>88.4</td><td>+3.4</td></tr><tr><td>地 域</td><td>100</td><td>+7.7</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2</td><td>－1.2</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	88.4	+3.4	地 域	100	+7.7	教職員	95.2	－1.2	◎学校ホームページや C4thHome&School で情報発信や連絡を積極的に行うようにしてきたことが保護者や地域からの肯定的な評価の上昇につながっているものとする。 ●感染症明け、学校行事や PTA・地域行事も再開されているが、広く周知させることや連携が不十分だったことが教職員の評価として表れている。	・情報発信をデジタル媒体で行うことが浸透してきているので、令和6年度もこの方針を進めることを年度当初の保護者会で伝え、周知を図っていく。 ・PTA や地域と連携し、活動内容を精査しながら、学校行事などの取組を考えていくことが必要である。	・情報配信は、便利ではあるが、読みにくく見過ごしてしまうことも多い。 ・配信の形を検討できるとよい。
対象	結果	差													
保護者	88.4	+3.4													
地 域	100	+7.7													
教職員	95.2	－1.2													
Ⅷ 教員の人材育成について ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2</td><td>－3.0</td></tr></table>	対象	結果	差	教職員	95.2	－3.0	◎肯定的評価が昨年度より 3 ポイント減少したが、95.2%と高く、概ね良好といえる。特に若手教員に対して、指導教諭だけでなく、学年・専科の教諭など、複数の教員が関わり、指導の仕方を示したり、模範となったりしたことによるものだと考えられる。一方で研修のための十分な時間を確保することが難しいことが課題である。	・若手教員の育成だけでなく、それぞれの職層としての職責が果たせるよう、OJT の充実を図る。その際、誰が誰に対して何の OJT を行うのかを明確にし、それぞれの課題、適正に応じた能力の向上が図れるよう計画していく。 ・若手教諭が担当職務についての不安を少なくできるよう、学年間を超えて、相談できる時間を設ける。	・OJT の充実を図ることは大切だが、進め方が難しいと感じる。 ・人材育成が効果的にできるような組織作りをし、1 年間を通して計画的に進められるようにする。						
対象	結果	差													
教職員	95.2	－3.0													

Ⅸ 教員の働き方改革について

- ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について

対象	結果	差
教職員	81.0	-11.1

●会議の時間短縮や内容の精選を行うことで、時間は確保されている。一方で、長期休業を充実させるため学期中に個人面談や研修等を設定したことが教職員の多忙感につながった。また、新型コロナウイルス対策以前に行ってきた学校行事や学習を再開するにあたり、準備や打ち合わせをする必要があり、時間が取られたことも評価の下がった要因と考える。

- ・行事等の見直しを図り、ゆとりをもった教育計画にする。
- ・校務支援システムを活用し、情報共有や、業務の効率化に努める。
- ・特定の教職員に負担がかかり過ぎないように、半期ごとに業務分担や組織について見直す。
- ・会議等の精選、焦点化を図り、時間を有効に使う。

- ・活動することが多く、忙しさが増しているのではないかと考える。活動内容や取り組み方の見直しを図り、業務の効率化を図っていくことが必要である。